

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 特定非営利活動法人 加賀国際交流会 たぶんかネット加賀

1. 事業の趣旨・目的

近年急増している中国人企業実習生に対する日本語教育を求める声が多く寄せられており、来日前に学習してきた日本語の基礎学力を定着させ、日本語能力試験 N4 受験の準備のための授業を実施する。また、就労時に目にする日本語の書類やメールなどに理解を示せるようになるための初歩のパソコン講座を併せて実施することを目的とする。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
1 月 4 日	蘇梁館	東利子 敷田紀子 小矢田進 稲木文彦 佐々木かずみ	単一籍の学習者に対して如何に母語を使用させずに日本語学習に集中させるか、サポータへのやさしい日本語の徹底	2, 3人の学習者に対して1人の補助者が対応。 やさしい日本語は単文、母音の明確な発音、会話速度はもちろん、表情や身振り手振りにも気を遣う。
2 月 1 日	蘇梁館	東利子 敷田紀子 小矢田進 稲木文彦 佐々木かずみ	学習者のレベル差を埋める授業の進め方と取り組み方と宿題の出し方	中級者への質問の投げかけに注意し、一定のテーマを設けて自分の意見を出し合う形式でそれぞれが達成感を得られるように対応。
3 月 1 日	蘇梁館	東利子 敷田紀子 小矢田進 稲木文彦 佐々木かずみ	今後増え続ける企業実習生への日本語教育をサポータに頼った形式からより大人数を教育するための体制構築	最低限の教授者と補助者でより多くの実習生の指導が必要。教科書以外のテーマ設定による討論形式の授業が必要。

【写真】



3. 日本語教室の開催について

- (1) 講座名： 企業実習生の為の日本語会話講座
- (2) 開催場所： セミナーハウスあいりす、および蘇梁館
- (3) 学習目標： 日本語能力試験 N4 受験のに向けた基礎学力の定着と会話量の増加。
日頃、目にする書類に対する理解とメールのやりとり。
- (4) 使用した教材・リソース： みんなの日本語・できる日本語
- (5) 受講者の募集方法：
以前より日本語教育の要望のあった企業にチラシを作成しご案内。
- (6) 受講者の総数： 15 人
(出身・国籍別内訳： 中国 15人)
- (7) 開催時間数(回数)： 30 時間 (全15 回)

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語 (人)	教授者・補助者人数	内容
①	1月6日 19:00～21:00	2時間	14人	中国語 (14人)	教授者 1人 補助者 5人	自己紹介、会話のルール学習 ・ みんなの日本語 ・ できる日本語
②	1月8日 13:00～15:00	2時間	13人	中国語 (13人)	教授者 1人 補助者 5人	既学習の文法復習と実践学習 ・ みんなの日本語 ・ 出来る日本語

③	1月8日 15:30～17:30	2時間	13人	中国語（13人）	教授者1人 補助者5人	動詞の活用復習と実践学習 ・みんなの日本語 ・出来る日本語
④	1月13日 19:00～21:00	2時間	13人	中国語（13人）	教授者1人 補助者5人	ローマ字入力学習 ・日本語でできる 外国人のためのパソコンの基本
⑤	1月20日 19:00～21:00	2時間	12人	中国語（12人）	教授者1人 補助者5人	ローマ字入力学習 ・日本語でできる 外国人のためのパソコンの基本
⑥	2月3日 19:00～21:00	2時間	12人	中国語（12人）	教授者1人 補助者5人	動詞活用と実践学習 普通形・名詞修飾 ・みんなの日本語 ・出来る日本語
⑦	2月10日 19:00～21:00	2時間	14人	中国語（14人）	教授者1人 補助者5人	文字変換と修正学習 ・日本語でできる 外国人のためのパソコンの基本
⑧	2月17日 19:00～21:00	2時間	12人	中国語（12人）	教授者1人 補助者5人	動詞活用と実践学習 辞書形・普通形過去 ・みんなの日本語 ・出来る日本語
⑨	2月26日 13:00～15:00	2時間	15人	中国語（15人）	教授者1人 補助者5人	動詞活用普通形応用学習 ・みんなの日本語 ・出来る日本語
⑩	2月26日 15:30～17:30	2時間	15人	中国語（15人）	教授者1人 補助者5人	動詞活用応用学習 状態・完了 ・みんなの日本語 ・出来る日本語
⑪	3月2日 19:00～21:00	2時間	12人	中国語（12人）	教授者1人 補助者5人	メール学習 ・日本語でできる 外国人のためのパソコンの基本

⑫	3月9日 19:00～21:00	2時間	14人	中国語（14人）	教授者1人 補助者5人	文章作成学習 ・日本語のできる 外国人のためのパソコンの基本
⑬	3月18日 13:00～15:00	2時間	15人	中国語（15人）	教授者1人 補助者5人	時制学習 ・みんなの日本語 ・出来る日本語
⑭	3月18日 15:30～17:30	2時間	15人	中国語（15人）	教授者1人 補助者5人	動詞活用応用学習 辞書形・条件形 ・みんなの日本語 ・出来る日本語
⑮	3月23日 19:00～21:00	2時間	15人	中国語（15人）	教授者1人 補助者5人	使役受け身活用応用 ・みんなの日本語 ・出来る日本語

（9）特徴的な授業風景（2～3回分）

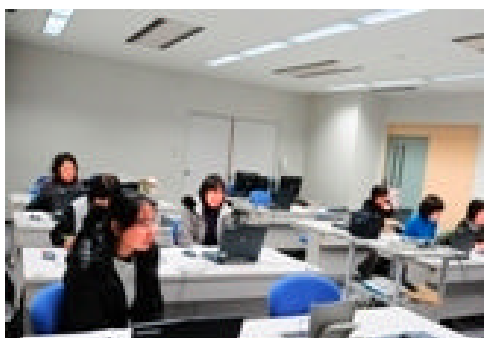
動詞活用の一覧を利用し、簡単に復習、その後実践



動詞の活用や応用が理解出来るか、また読めるかなどをプリントで確認。



言語バーについての講習からローマ字入力(ローマ字表参照)、ひらがな→カタカナ→漢字→英数字→記号と学習。



4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

日本語能力試験N4受験に向けた基礎学力の定着と来日前に学習した日本語文法を実践的授業をサポートが補うことで、日頃使うことのない日本語に対する自信が付き、自ら会話を投げかけることが増えた。

(2) 学習者の習得状況

主教材「みんなの日本語初級本冊」の敬語以外の学習内容はある程度来日前にも学習しているため導入に時間は必要なかったが、来日以降日本語会話を磨く、または使用するという環境にないことと、また職場での通訳者の存在が余時間の日本語学習につながりにくいという背景から、学習者の日本語能力試験や日常の中で必要と思われる事柄の学習に対する熱心さとそれ以外の学習に対する姿勢の違いが浮き彫りになった。

(3) 日本語教室設置運営の効果, 成果

多くの日本人サポーターによる授業参加により、実践会話の質が格段に上がった。実習生達のレベル差に偏りはあるものの、基本に立ち返り、復習,導入した表現をどの場面で使用し、どの場面でも応用できるのかという授業を受け、各自が新たに習得することがあった。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

主に国際交流団体のメンバーによる授業サポートをより多くの会員に担当してもらい、日本人との接点を多くとり、実践形式の授業にやさしい日本語を使ってサポートすることが難しいものではないということを理解してもらえ、今後多くのサポーターが関われるのではないかという展望ができた。

(5) 改善点, 今後の課題について

① 現状

企業実習生を対象にした日本語教室のため、地域的にほぼ全員中国籍であり、授業中の母語使用の頻度が比較的多かったように思う。

② 今後の課題

いかにして学習言語(日本語)だけを使った授業が展開できるかが課題となるように思う。

③ 今後の活動予定, 展望

定期的に来日し続ける企業実習生に対して継続的な日本語授業と実践授業の拡充を検討していく。